

Pro Tools M-Powered 7.4.2 on Mac for Pro Tools M-Powered Systems on Mac OS X 10.5.3 " Leopard " Only

このドキュメントには、Pro Tools M-Powered 7.4.2 (Mac OS X 10.5.3 が起動する Digidesign の動作確認済みコンピュータ使用時)に関する、重要な互換性情報と既知の問題点、エラー・コード及びユーザー・ガイドの訂正事項等が記載されています。

互換性

Digidesign は、Digidesign が動作確認を行ったハードウェア及びソフトウェア環境のみを互換 / 対応情報として提供しています。

 動作確認済みのコンピュータ、オペレーティング・システム、及びサードパーティ製品等に関する最新情報は、Digidesign の Web サイト (www.digidesign.com/compatibility) でご確認ください。

Pro Tools で使用する Mac OS X 10.5.3 用キーボード・ショートカットを無効に設定する (Item #100718, 100111, and 101127)


Pro Tools のキーボード・ショートカットをフル活用するには、以下の Mac OS X 10.5.3 キーボード・ショートカット環境設定を無効またはリマップする必要があります。

- "ヘルプメニューを表示"
- "Dock, Expos, and Dashboard" 内
 - "全てのウィンドウ"
 - "アプリケーション・ウィンドウ"
 - "デスクトップ"
 - "ダッシュボード"
 - "スペース"
- "Spotlight" 内
 - "Spotlight 検索フィールドを表示"
 - "Spotlight ウィンドウを表示"

サードパーティ・プラグインの互換性

現在出荷中のサードパーティ製プラグインの中には、Mac OS 10.5.3 上で起動する Pro Tools 7.4.2 と互換性のないバージョンも存在します。Digidesign は開発パートナーとの協力の下、各社製品と Pro Tools の互換性を最大化するよう勤めていますが、現状ではこれらの製品に対する公式なテスト及び推奨は成されていません。サードパーティ製品に関する最新の互換性情報は、Digidesign のウェブサイト (www.digidesign.co.jp) をご覧ください。OS 10.5.3 及び Pro Tools 7.4.2 の下で起動するサードパーティ製品に関わる互換性情報が、順次アップされる予定です。

- Ignition Pack 及び Ignition Pack 2 に収められているサードパーティ製品の中には、Mac OS X 10.5.3 対応バージョンへアップデートが必要なものもあります。これらの製品向けアップデートに関する情報は、Digidesign のウェブサイト (www.digidesign.com/jp) をご覧ください。
- ReWire クライアント・アプリケーションの旧バージョン (Melodyne、Live、Reason の旧バージョンを含む) がインストールされている場合は、ReWire のロード時に Pro Tools がハングする場合があります。この場合は、互換性のある最新バージョンの ReWire クライアント・アプリケーションをインストールしてください。

 各社製品に関する最新情報は各開発パートナーのウェブサイトをご覧ください。

Mac OS X 10.5.3 と ATTO SCSI ホスト・バス・アダプタの互換性 (Item #102690)

現行の ATTO UL5D ドライバと OS X 10.5.3 は非互換であり、これによりカーネル・パニックが発生する可能性があります。この非互換性が解決されるまで、Pro Toolsはこのコンフィギュレーションにおける SCSI ハード・ドライブをサポート致しかねます。

▲ 現状で、Mac OS X 10.5.1 上で Pro Tools 7.4.1 と SCSI ハード・ドライブをご使用のユーザー様の中で、引き続き SCSI をご利用になりたいお客様は、アップグレードをお控え頂くようお願い致します。

NVIDIA GeForce 8800 GT 及び 7300 GT カードに関する互換性問題 (Item #103425)

Mac OS X 10.5.3 と NVIDIA ディスプレイ・カードには、互換性の問題が確認されています。このため、Digidesign は、Pro Tools 7.4.2 に対して ATI ディスプレイ・カードを装備する Mac のみをサポートします。

Mac OS 拡張 (大文字 / 小文字を区別、ジャーナリング) でフォーマットされたドライブへはレコーディングできません (Item #66749)

Pro Tools は、Mac OS 拡張 (大文字 / 小文字を区別) でフォーマットされたドライブへレコーディングできません。正しくレコーディングできるよう、Mac OS X の録音ボリュームを「Mac OS 拡張(ジャーナリング)」にフォーマットしてください。

Mac OS X 10.5.3 用 Pro Tools 7.4.2 に関する既知の問題点

ここでは、Mac OS X 10.5.3 用 Pro Tools 7.4.2 の使用時に生じる可能性のある問題点と、その回避方法について記載しています。

Spotlight の索引作業によって、長時間レコーディングが阻害される (Item #97151)

レコーディング中の Spotlight 索引作業には、既知の問題点を確認されています。数多くのトラックを 1 時間以上レコーディングする場合、パフォーマンスを最大化するために、Mac OS X [システム環境設定] において全てのドライブをプライベートに設定します。これを怠ると、Spotlight の索引作業が開始された際に Pro Tools がエラーを起こし、レコーディングが終了する可能性があります。

既知の問題点 (Pro Tools 7.4)

以下は Pro Tools 7.4 において確認済みかつ Pro Tools 7.4.2 の使用時も発生する可能性のある既知の問題点と、その回避方法です。

Pro Tools

メモリーロケーションのコメント欄の文字数増加 (Item # 83593)

Pro Tools 7.3 以降では、メモリーロケーションのコメント欄で許容される文字数が増加しました。以前のバージョンの Pro Tools で Pro Tools 7.3 以降のセッションを開くと、258 文字を超えたテキストは、メモリーロケーションのコメント欄に表示されません。

バス経由でオーディオ・トラックヘルディングした際のメイン出力 (ステム) の遅延 (Item #86709)

AOS 可能なバーチャル・インストゥルメントにおいて、バス経由でオーディオ・トラックの入力へ接続されていると、そのメイン出力が揃わないことがあります。これは、セッション内で AOS ルーティングを作成、または AOS ルーティングを持つセッションを開いた際に起こります。この現象は、自動遅延補正をオン / オフにトグルすることで回避できます。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] 有効時は、CPU 使用限度に達する可能性がある (Item #83343)

CPU 使用限度を 85% 以上で [RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にした場合、コンピュータがオーバーロードしてレコーディングができなくなる場合があります。[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効に設定しているときは、CPU 使用限度を 80% 以下に設定してください。

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を高く設定していると、画面のリドローがスローダウンする (Item #82915)

[RTAS Error Suppression (RTAS エラー抑制)] を有効にして、CPU 使用限度を 85% 以上に設定すると、画面のリドローやバックグラウンド CPU タスクがスローになる可能性があります。RTAS Error Suppression を使用中にこれが起きた場合、プレイバックエンジン・ダイアログを開いて、CPU 使用限度を 5 ~ 10% 低くしてください。

インストゥルメント・トラックや Aux 入力に、ソフトウェア・インストゥルメントをインサートしても音が出ない (Item #65797)

ソフトウェア・インストゥルメントの中には、適切なハードウェア・インプットまたは MIDI アウトプットをアサインしないと音も出ず、再生もしないものがあります。これが起こった場合は、ハードウェア・インプットをインストゥルメント・トラックまたは Aux インプットに、MIDI アウトプットをインストゥルメント・トラックへ手動でアサインします。

ワークスペース・ブラウザ内で、特定ファイルのエラスティック分析計算 / クリアができない (Item #89026)

エラスティック・オーディオによりサポートされるファイル・フォーマットの拡張子が付いているにもかかわらず (.WAV または .AIF)、Pro Tools のワークスペース・ブラウザがエラスティック分析の計算またはクリアを実行できない場合がごく稀にあります。ブラウザ・メニューの [エラスティック分析を計算] 及び [エラスティック分析をクリア] がグレイアウトします。このような場合、ファイルが実際に非サポートのフォーマットである可能性があります。ファイル・フォーマットを確認するために、ワークスペース・ブラウザのフォーマット欄をご覧ください。QuickTime などの WAV または AIFF 以外のファイル・フォーマットが示されている場合は、エラスティック分析の計算またはクリアを実行することはできません。とはいえ、これらの非サポート・ファイルはテンポに合わせて視聴することも、セッションへインポートすればエラスティック化することもできます。

Pro Tools 5.1 ~ 6.9 フォーマットでセッションを保存した際にリージョン・ループが欠落する (Items #90102, 90079)

5.1 ~ 6.9 でセッションを保存すると、「リージョン・ループが失われます」という旨のダイアログが表示されます。これを回避するためには、全てのオーディオ・ファイルをハイライト表示して、[リージョン] > [ループ解除] > [フラットに] を実行した後で、セッションを Pro Tools の下位バージョンで保存します。

エラスティック・オーディオをモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムで使用した際、オーディオ・ファイル内にドリフトが発生する (Item #96151)

エラスティック・オーディオを使用する際にオーディオ・リージョン内にドリフトが発生することがありますが、これはリージョンがモノフォニックまたは X-Form アルゴリズムを使用してどの程度伸縮されるかに依存します。トランジェント情報を持つ素材にエラスティック・オーディオを使用し、かつドリフトを回避したい場合は、ポリフォニックまたはリズムミック・アルゴリズムをご使用ください。

異なるテンポの Reason ソングを開いた後、ティックベース・トラック上のオーディオ・リージョンが、正しいテンポで再生されない (Item #96710)

セッションと異なるテンポの Reason ソングを開くと、ティックベースのトラック上にあるオーディオ・トラックが正しいテンポで再生されないことがあります。コンダクターまたはマニュアル・テンポ入力経由でテンポ変更を施すと、リージョンが正しく再生されます。

Beat Detective の [小節 | 拍マーカーを生成] でテンポマップを作成すると、レンダー・モード内のリージョン・グループがオフラインになる (Item #97993)

Beat Detective の [小節 | 拍マーカーを生成] でテンポ・マップを作成すると、レンダー・モードのリージョン・グループがオフラインになることがあります。オフラインになったリージョンに編集を加え、エラスティック・オーディオをレンダーからリアルタイムに変更し、再度レンダー・モードへ戻すことでオンラインになります。

リアルタイム・エラスティック・オーディオ・トラックの波形表示 (Item #98343)

エラスティック・オーディオのリアルタイム・プロセッシングを使用している場合、使用しているアルゴリズムに関わらず、Pro Tools にはヴァリスピードの波形が表示されます。これは、全てのエラスティック・オーディオ・プロセッシングがリアルタイムに処理され、波形自体はどのようにサウンドするかの予測であることに起因します。レンダー・モードへ切り替えることで、使用しているアルゴリズムによってレンダーされた場合の実際のオーディオの様相を視認できます。

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される (Item #98841)

オーディオをインポートすると、IXML メタデータを持ったステレオ・インターリーブ WAV ファイルが 2 つの個別のモノ・トラックに分割される場合があります。ワークスペースを使用して、ファイルを編集ウィンドウまたはステレオ・トラック上に直接ドラッグしてください。

セッションのテンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用「デフォルト・インプット・ゲイン」(Item #96725)

[初期設定]内の[プロセッシング]ページにある[エラスティック・オーディオ]>[デフォルトインプットゲイン]は、セッション・テンポでインポートされたエラスティック・オーディオ用の設定です。ワークスペース内の[コンテキスト視聴]がオン、またはプロセッシング初期設定ページ内の[デスクトップからのドラッグ&ドロップはセッション・テンポに合わせる]がオンに設定されていない限り、この初期設定オプションは機能しません。

エラスティック・オーディオを含んだリージョン・グループは、そのリージョン・グループ自体にエラスティック機能が適用されていない場合、エラスティックとして認識されない (Item #92770, #97107)

リージョン・グループ内にエラスティック・オーディオが含まれているが、リージョン・グループ自体の最外層においてエラスティック・オーディオ操作がなされていない場合は、そのリージョン・グループはエラスティック・オーディオとして認識されません。新規トラック作成に用いられる場合、トラックは自動的に[エラスティック・オーディオ 有効]には設定されず、リージョン・グループ内のエラスティック・オーディオは、そのセッション用のデフォルト・エラスティック・オーディオ・プラグインを使用してレンダリングされます。これは、リージョン・グループにワーブ・マーカーを追加して、強制的にエラスティック・リージョンと認識させることで回避できます。または、[エラスティック・オーディオ 有効]に設定したトラックを最初に作成した後に、リージョン・グループを追加します。

[ソース・メディアから統合] オプションを使用してエラスティック・オーディオをインポートできない (Item #96404)

[ソース・メディアからコピー]を使用して、エラスティック・オーディオ・トラックをインポートしてください。

セッション内にあるすべてのリージョン・グループのコピーに、瞬時に AudioSuite を適用するには、下記の通りにします。

- 1 プロセスするリージョン・グループを選択します。
- 2 リージョン・メニューから[すべてのグループ解除]を選択します。グループ内の全要素が選択されたままの状態になります。
- 3 AudioSuite プロセスを実行します。
- 4 リージョン・メニューから[再グループ]を選択します。

プロンプトが表示されたら、セッション内のリージョン・グループの全コピーへ AudioSuite を適用する場合は“修正”を選択し、選択されたリージョン・グループのみに適用する場合は“コピー”を選択します。

アドミン権限の無いユーザーが、QuickTime ムービーを含むセッションを開いた時に、そのセッションを再生できない問題 (Item #47053)

もしアドミン権限がなく、Quick Time への承認が無いユーザーが、QuickTime ムービー付きのセッションを開いた場合は、「Quick Time ムービー・ファイルが無く再リンクしますか」というダイアログが表示されます。再リンクウィンドウでは、そのムービー・ファイルを見つけ再リンクしたかのように見えますが、依然再生することはできません。再生できるようにするには、Quick Time ファイルへの承認をすることになります。

MP3 Codec は著作権保護されたファイルをエクスポートしない (Item #68985)

Pro Tools 7.3 以降における新しい MP3 Codec は、著作権保護されたファイル属性をエンコードする機能はありません。これはフラウンホーファーの新しい Codec 制限です。

Pro Tools 7.x で 48kHz セッションを MP3 へバウンスすると、44.1 kHz の MP3 ファイルが生成される (Item #72617)

320kbps 以外のビット・レートで、変換クオリティを [最良(最も長時間の処理)]と設定して MP3 へバウンスすると、44.1 kHz のファイルが生成されます。これはエンコーダの既知の制限です。

QuickTime オーディオ・フォーマットの中にはインポートできませんものがある (Items #58792, 73064)

Apple Lossless または AMR オーディオで圧縮された QuickTime ムービーのオーディオは、Pro Tools へインポートできません。QuickTime Pro またはその他のアプリケーションを使用して、インポートする前に、オーディオを別のオーディオ・フォーマットへ変換してください。

Apple Lossless Codec は QuickTime ムービーへのバウンスをサポートしていません (Item #75224)

Pro Tools 7.3 以降は Apple Lossless オーディオ・コーデックをサポートしていません。[QuickTime ムービーへバウンス] のオーディオ圧縮ダイアログからこれを選択すると、使用可能なオーディオを含まないムービーが生成されます。

巨大な DigiBase カタログの変換には数時間を要する場合があります (Item #77636)

過去の極端に大きいカタログ (10,000+ 参照ファイル) を変換するには、数時間を要する場合があります。このため、生産性を妨害しない程度に、適宜カタログを変換するようお勧めします。カタログが変換されるまで、Pro Tools の起動時に毎回プロンプトが表示されますが、変換準備が整うまでこれらのプロンプトを無視できます。一度変換されると、この問題は再現しません。

プラグイン

Structure 及び Goliath インストーラでは、サンプル・コンテンツは自動インストールされません (Item #99595)

Structure 及び Goliath インストーラは、それぞれのサンプル・コンテンツを自動的にインストールする訳ではありません。サンプル・ライブラリを各インストーラ DVD からハード・ドライブへ、手動コピーする必要があります。

Structure サンプル・コンテンツをインストールするには:

- 1 Structure インストーラを起動します。
- 2 Structure のインストール後、Structure DVD 1 インストーラ・ディスクからお使いのハード・ドライブ上の以下のロケーションへ、"Samples DVD 1" フォルダを手動でコピーします。
`/Structure/Structure Factory Libraries/Structure Encrypted Samples`
- 3 残りのインストーラ・ディスクをコンピュータへインサートして、ハード・ドライブ上の Structure Encrypted Samples フォルダへ、各ディスク上の "Samples DVD" フォルダをコピーします。

Goliath サンプル・コンテンツをインストールするには:

- 1 Structure がインストールされていることを確認します。
- 2 Goliath インストーラを起動します。
- 3 Goliath のインストール後、Goliath DVD 1 インストーラ・ディスクからお使いのハード・ドライブ上の以下のロケーションへ、"Samples DVD 1" フォルダを手動でコピーします。
`/Goliath - Structure Edition/Samples`
- 4 残りのインストーラ・ディスクをコンピュータへインサートして、ハード・ドライブ上の Samples フォルダへ、各ディスク上の "Samples DVD" フォルダをコピーします。

X-Form AudioSuite の視聴パフォーマンス (Item #96728)

Polyphonic モードで Formant スイッチが入った状態で視聴をすると、フォルマント・プロセッシングは、視聴ループが 2 周目になるまで作用しません。さらに、Polyphonic モードで視聴中にフォルマント修正が行われると、スロー・プロセッシングによるオーディオ・ドロップアウトが発生します。

7.x 対応プラグイン及び追加オプション・ソフトウェアのデモ・モード

Digidesign 7.x プラグイン及び Pro Tools 7.x 追加オプション・ソフトウェアには、期間限定のデモ版は含まれません。その代わりに、これらプラグイン及び追加オプションのデモ版を使用するには、iLok USB キー及びデモの iLok ライセンスが必要です。デモ・ライセンスの取得を希望される際は、Digidesign ウェブサイト (www.digidesign.com) の、其々の製品ページにて Demo ボタンをクリックしてください。

ファイルとディスク・マネージメント

フォルダ階層を保持して [セッションのコピーを保存] されたセッションを開くと、ファイルが見つからなくなる (Item #74454)

フォルダ階層を保持する機能は、複数ボリュームに分割されたメディアを含むセッションが、フォルダ階層を保持しながら、システム間を簡単に移動できるようデザインされています。メディア・ファイルを自動的に発見するためには、各ボリュームの第一階層に、Audio Files または Video Files を含むセッション名のフォルダを、手動でコピーまたは作成してください。あるいは、現在のロケーションで見つからないファイルを手動で再リンクします。

同じファイル名が複数存在するフォルダの階層を保持しながら、セッションのコピーを保存すると、正確に再リンクしない (Item #79868)

フォルダ階層を保持にチェックを入れてセッションのコピーを保存すると、手動再リンク時に、同名のファイルが正確に再リンクしない可能性があります。セッションのコピーを開くときは、正しいファイルをロケートするために、自動で再リンクを使用してください。[手動で再リンク] を使用してセッションを開き、それでもオフラインのファイルがある場合は、プロジェクト・ブラウザから [オフラインで再リンク] を選択して、残りのファイルを手動で再リンクします。

MIDI

MIDI レコーディング中に、[ノート待ち] 機能が ReWire からの MIDI 入力に反応しない (Items #90724, #97444)

MIDI レコーディングを演奏する際、[ノート待ち] 機能が ReWire から受ける MIDI に反応しないことがあります。ReWire アプリケーションから生成される MIDI をレコーディングする場合、手動でトランスポートをスタート、または [ノート待ち] の代わりに [カウントオフ] を使用する必要があります。

リアルタイム MIDI プロパティが有効に設定されていて、さらにダイアトニック・トランスポーズを使用するように設定された MIDIトラックにセッション・データをインポートした場合、トランスポーズはセッション内の最初のキーを元に行われます (Item #81666)

複数のキー (調) と、リアルタイム・プロパティのキー・トランスポーズが有効に設定された MIDI またはインストゥルメント・トラックを含むセッションから、セッション・データをインポートすると、トランスポーズはセッション内の最初のキーをベースに行われます。これは、ダイアトニック・トランスポーズが各キーに対して正しくなる場所で、リアルタイム・プロパティをオン/オフ切り替えると補正できます。

ビデオ

サポートされない QuickTime ビデオ・フォーマット (Items #72933, 72956, 72958, 72961)

QuickTime でサポートされるビデオ・フォーマットの中には、ProTools ではサポートされないものがあります。これらには .DivX, .flc, .m4v 及び .3gp フォーマットが含まれています。これらのフォーマットをインポートしようとする、エラーの発生やインポートの失敗を引き起こします。

シャッフル・モードで、Macintosh Finder からのビデオ・ドラッグは正確に機能しません (Item #78451)

シャッフル・モードのときにデスクトップから編集ウィンドウへビデオ・ファイルをドラッグすると、必ずセッション・スタートにそのビデオは配置され、既存のビデオ・リージョンを上書きします。

QuickTime ムービー・トラックの編集密度が高くなると、Pro Tools の UI 速度が落ちる可能性があります (Item #77720)

1 つまたはそれ以上の QuickTime ビデオ・トラックの編集が複雑になるにつれ、Pro Tools のレスポンスが遅くなる場合があります。複雑に編集された QuickTime クリップとともに作業している場合は、Pro Tools のレスポンスは低減します。この場合は、一度 QuickTime ムービーへバウンスしてから、そのバウンス・ファイルをインポートしてください。

MPEG-1 及び MPEG-2 が編集点でフリーズする (Item #79182)

MPEG-1 及び MPEG-2 ビデオのエディットは、公式にはサポートされていません。この問題が起こった場合は、プレイバックをビデオ・ウィンドウへ切り替える、またはサードパーティ製アプリケーションを使用して、ムービーをサポートされるフォーマットへ変換してください。サードパーティ・アプリケーションによって MPEG-1 または MPEG-2 からオーディオを除去することで、この問題が解決する場合があります。

多重化された MPEG-1 及び MPEG-2 ムービーのオーディオがインポートされず、バウンズされたムービー内で聴こえない (Item #76063)

他の QuickTime フォーマットと違い、MPEG-1 や MPEG-2 ムービーは、オーディオとビデオを単一の多重化トラックへ記憶します。Pro Tools は、これらのタイプのムービーのビデオからオーディオを分離させることはできません。結果として、MPEG-1 または MPEG-2 ムービーからオーディオをインポートすることはできません。また、ソース・ムービーとして MPEG-1 や MPEG-2 ムービーを使用して [QuickTime へバウンズ] する場合は、そのムービーからのオリジナル・オーディオはバウンズされたムービーの中に現れます。(Pro Tools での作業中に聴こえていないとしても) MPEG-1 または MPEG-2 ファイルからオーディオをインポートするためには、サードパーティ製アプリケーションを使用して MPEG ストリームを“分離”してください。

QuickTime へバウンズする際は、既存のムービー名でバウンズしない (Item #76768)

[QuickTime へバウンズ] コマンドを使用する場合は、既存のムービーと同じ名称を使用するとバウンズに失敗します。各バウンズにはユニークな名称を使用する、または同名でバウンズする前に (既存ファイルと置き換えるのではなく) ドライブから以前のムービーを削除するのが最善です。

エラー・メッセージ

-6042 エラー

-6042 エラーが頻繁に発生する場合はシステム使用状況の PCI 使用状況を確認して下さい。このゲージがピークに達している場合は、PCI バスをリセットして下さい。PCI バスをリセットするには、全てのトラックを非アクティブにし、再生します。この状態でも -6042 エラーが発生し続ける場合は、Pro Tools を再起動し、プレイバックエンジン・ダイアログを開き、DSP チップ毎にかかるボイス数処理を、この設定上から減らして下さい。

2 GB のファイル制限到達時以外の DAE Error -9073

-9073 エラーが起こり、かつ 2 GB のファイル・サイズ制限にも到達していない場合、考えられる原因及び解決方法に関してはアンサーベースをご覧ください (<http://answerbase.digidesign.com>)。)

DAE Error -9128

サンプルレートが高く (96kHz 以上) また複雑なオートメーションを伴う、もしくは多数の RTAS プラグインが使用されているセッションを再生中に、この -9128 エラーが生じる場合は、ハードウェア・バッファ・サイズを 512 以上に設定すると回避できる場合があります。

DAE Error -9131 (Item #92747, #20843)

GUID でパーティションされたドライブでは、OS X での起動時にサード・パーティション以上へレコーディングできません。GUID の代わりに Apple Partition Map を使用して、オーディオ・ドライブをパーティションしてください。

-または-

Pro Tools では、UNIX File System (UFS) フォーマット・ドライブへの録音 / 再生はできません。

DAE Error -9132 (Item #32397)

ハードウェア・バッファサイズ設定を最高値に設定しているにも関わらず、[ディスクへバウンズ] 中に -9132 エラーが生じたら、セッション上に録音用のトラックを作成し、目的のトラックから内部バスを適切にアサインして、ディスクに録音してください。結果的にバウンズしたものと同じオーディオ・ファイルを使うことができます。

DAE Error -9155

ハイ・サンプルレート（96 kHz 以上）の複雑なオートメーションを伴ったセッションを再生中に、この -9155 エラーが生じる場合は、ハードウェア・バッファ・サイズを 512 以上に設定すると回避できる場合があります。

DAE Error -9735

Pro Tools がタイムラインの終点に到達した際、またはその論理的限界に達した場合、Pro Tools を最大タイム・リミットより長く継続して再生していると、このエラーが生じます。Pro Tools の最大タイムリミットは、セッションのサンプルレートに依存します。詳しくは、「*Pro Tools* リファレンスガイド」をお読みください。